

ご祈禱について

◆受付

毎日午前九時より随時
午後四時半まで
※予約制ではありません。

◆祈禱料

一件につき三千円より

◆注意事項

神社祭典等でお待ち頂く場合がございます。
ご了承ください。

※一月、二月、六月、九月には神社祭典等でご奉仕が出来ない時間帯が数日ございます。

※詳しくはお問い合わせください。



願意一覧

◆ご家庭・個人向け

車被い	学業成就	地の神
厄除	身体健康	金神除
八方除	病氣平癒	良縁祈願
家内安全	安産祈願	渡航安全
厄難消除	初宮詣	必勝祈願
合格祈願	交通安全	等

◆会社・企業向け

商売繁昌	社内安全	工事安全
社運隆昌	事業繁栄	等

※この他のご祈禱につきましてもお気軽にご相談ください。

車被い

皆様の日常生活になくってはならない自動車・バイクのお被いをいたします。

受付の前に本殿北側の車被所に正面からお車をお停めください。【左記地図参照】
※受付時にお車の車両番号（ナンバープレートの情報すべて）をご記入していただきますのでお控えいただくか、車検証をお持ちください。



毎朝の
日供祭時に
交通安全を祈願
いたします。



徹下品について

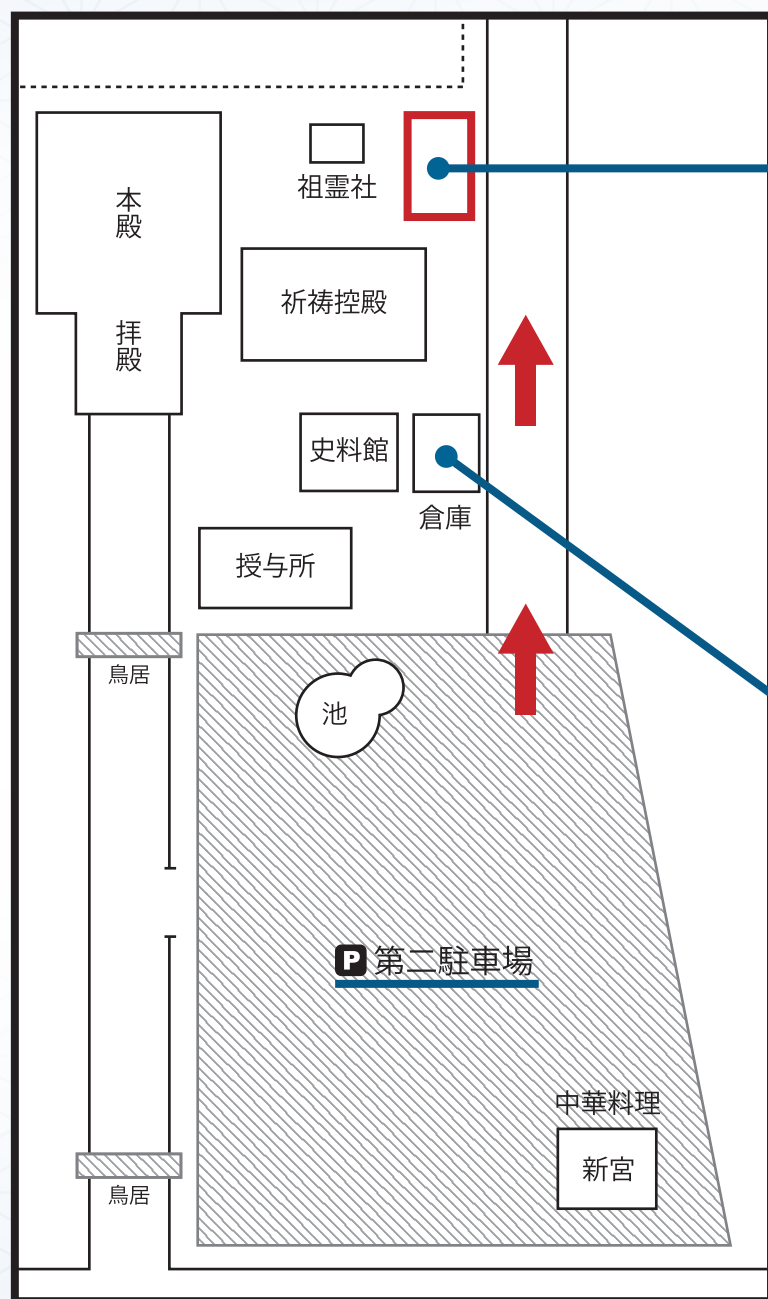
ご祈祷をお申し込みの方には、
・交通安全守（紐付き）
・交通安全ステッカー
・車型の絵馬
以上をお付けしております。

絵馬掛け

ご祈祷の後、社殿の賽銭箱横の絵馬掛けに車型の絵馬を吊るしてください。
その後車被所にてお車のお被いをいたします。

境内地図 — 車祓所付近 —

第二駐車場を通り抜けてお越しください。



車祓所



＜車3台停められる広さです＞
※駐車スペースがない場合は祓所のお近くにお停めください。

雨天時車祓所



雨の日でもお祓いができます。



厄除

厄年とは

我々の祖先は古来より厄年に当たる年には体調の変化、生活の変化が著しく、また悪しき事が起こるとされ、忌み慎んで過ごしてまいりました。

厄年にあたる本厄の方またその前後の前厄、後厄の方はお忘れなくご祈祷をお受けになり災いのない一年をお過ごしください。

子年
年男年女

昭和十一年（八十五歳）
昭和四十七年（四十九歳）
平成二十年（十三歳）

昭和二十三年（七十三歳）
昭和五十九年（三十七歳）
昭和三十五年（六十一歳）
平成八年（二十五歳）

年男年女も
厄年です



◆男性厄年表

生まれ年	数え年	
平成九年生	二十四歳	前厄
平成八年生	二十五歳	本厄
平成七年生	二十六歳	後厄
昭和五十五年生	四十一歳	前厄
昭和五十四年生	四十二歳	本厄
昭和五十三年生	四十三歳	後厄
昭和三十六年生	六十歳	前厄
昭和三十五年生	六十一歳	本厄
昭和三十四年生	六十二歳	後厄

◆女性厄年表

生まれ年	数え年	
平成十五年生	十八歳	前厄
平成十四年生	十九歳	本厄
平成十三年生	二十歳	後厄
平成元年生	三十二歳	前厄
昭和六十三年生	三十三歳	本厄
昭和六十二年生	三十四歳	後厄
昭和六十年生	三十六歳	前厄
昭和五十九年生	三十七歳	本厄
昭和五十八年生	三十八歳	後厄
昭和三十六年生	六十歳	前厄
昭和三十五年生	六十一歳	本厄
昭和三十四年生	六十二歳	後厄

八方除

八方ふさがり

人は生まれ年により、九つの星「九星」に分けられ運勢を考える基本となっています。

下図の「八白」中央に入った星が自分の星の場合、他の八つの星に周囲を囲まれて八方塞がりの状態となります。

八方除のご祈祷で、災厄を被い除け幸福で豊かな生活をお祈り申し上げます。

◆令和二年 庚子歳方位



八方ふさがり表

生まれ年	数え年
平成二十三年生	十歳
平成十四年生	十九歳
平成五年生	二十八歳
昭和五十九年生	三十七歳
昭和五十年生	四十六歳
昭和四十一年生	五十五歳
昭和三十三年生	六十四歳
昭和二十三年生	七十三歳
昭和十四年生	八十二歳

女性のみ
厄年と重複

男女とも
厄年と重複

男女とも
厄年と重複

安産祈願

母子ともに健やかにご出産されますよう安産の御祈願をいたします。

安産の御祈禱は妊娠五か月目の戌の日に行うのが良いとされています。これは犬が多産でかつ御産が軽いからです。ですが最近ではこの日に限らずお越しになる方も多いのでご都合のよろしい日にお越しください。

ご使用になれる腹帯をお持ちでしたら御祈禱と一緒にお願いいたしますのでご持参ください。

安産祈願絵馬

ご祈禱の方にはお札・安産守・安産絵馬をお付けしております。絵馬は出産予定日と願い事をお書きいただいた後、絵馬掛けに吊るしてください。

令和二年戌の日一覽

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
九日(水) 二十一日(月)	二十七日(金) 三日(火) 十五日(日)	十日(土) 二十二日(木)	二十八日(月) 四日(金) 十六日(水)	十一日(火) 二十三日(日)	三十日(木) 六日(月) 十八日(土)	十二日(金) 二十四日(水)	三十一日(日) 七日(木) 十九日(火)	二十五日(土) 一日(水) 十三日(月)	八日(日) 二十日(金)	二十五日(火) 一日(土) 十三日(木)	八日(水) 二十日(月)

初宮詣

赤ちゃんの健やかな成長をご祈願いたします。

初宮詣とは、お子様が生まれてから初めて神社に詣でて神様に生まれた旨の報告と健やかな成長を祈願するものです。
生後三十日前後でお参りするのが主流ですが、これにこだわらず赤ちゃんの体調をみてご来社ください。

お食い初めとは

生後一〇〇日くらいの乳歯が生えてきたころに食べ物を食べさせるまねをして、お子様が将来食べ物に困らないようにとお祈りする儀式です。



お気持ち多くお納めいただいた方には
・お食い初めセット
もお付けしております。



徹下品について

ご祈禱の方には
・お守り
・お札
・絵馬
以上をお付けしております。

七五三詣

お子様の健やかな成長を
御祈願をいたします。

七五三詣はお子様の健やかな成長を祈る大切な神事です。三歳・五歳・七歳の節目に神社に参拝して無事成長した事を感謝し、これからの将来の幸福と長寿をお祈りするのが七五三の行事です。本来は数え年でお参りしますが、現在は満年齢で行われる場合も多いようです。また、七五三のお祝いの日は十一月十五日ですが、その日以外でもご祈願いたしております。

七歳

◆ 数え年
平成二十六年
◆ 満年齢
平成二十五年

令和二年
該当の
生まれ年



五歳

◆ 数え年
平成二十八年
◆ 満年齢
平成二十七年

三歳

◆ 数え年
平成三十年
◆ 満年齢
平成二十九年

徹下品について

ご祈禱の方には

- ・お守
 - ・千歳あめ（時期により、お付けできない場合もございます。ご了承ください。）
 - ・クレヨン
 - ・らくがき帳
- をお付けしております。



合格祈願

学業成就

学問の神・宗良親王

御祭神宗良親王は、時代の流れにより計らずも戦う道を歩まれましたが、比叡山の最上位である天台座主をつとめられ又和歌に秀でるなど学識豊かであられました。そのご神徳にあやかり学業成就、合格祈願を行っております。

お子さんの受験時、日々の学業に、また御進級、御進学の日々、資格試験時にどうぞご祈禱をお受けください。

宗良親王



学業成就 徹下品について

ご祈禱の方には
・お札
・学業成就守
をお付けしております。

合格祈願 徹下品について

ご祈禱の方には
・お札
・合格守
・合格絵馬
をお付けしております。
絵馬はお願い事を書き
いただいた後、絵馬掛けに吊
るしてください。

家内安全

商売繁昌

家内安全・商売繁昌

家内安全・商売繁昌にはお札をお付けいたします。

神棚にお祀りいただくか、目線より高いところに南向きか東向きに置いて一年間お祀りください。

井伊谷宮の神様のご加護のもと、災い無く実り豊かに過ごしてください。



家内安全 徹下品について

ご祈禱の方には

- ・お札
 - ・お神酒
- をお付けしております。

商売繁昌 徹下品について

ご祈禱の方には

- ・お札
 - ・お神酒
- をお付けしております。

地の神

地の神さまとは

地の神様は土地（大地）と家を守る神様です。
敷地や建物をお守りいただけるよう、お札に神様を御分
かちするご祈祷です。
御札は弊社に納めてお祀りください。【下記図参照】



徹下品について

ご祈祷の方には

- ・お札
- ・被砂

以上をお付けしております。

被砂は、地の神のお社の下や周りに撒いてお清めください。



弊社をお祀りする場所について

ご祈祷後の社は敷地の戌亥（北西）の角に南から東の間に向けて置いてください。



弊社について

当宮でのご用意もごございます。（屋根にトタンがついています。）

※弊社をお持ちの方はご持参いただければお被いをいたします。



金神さまとは

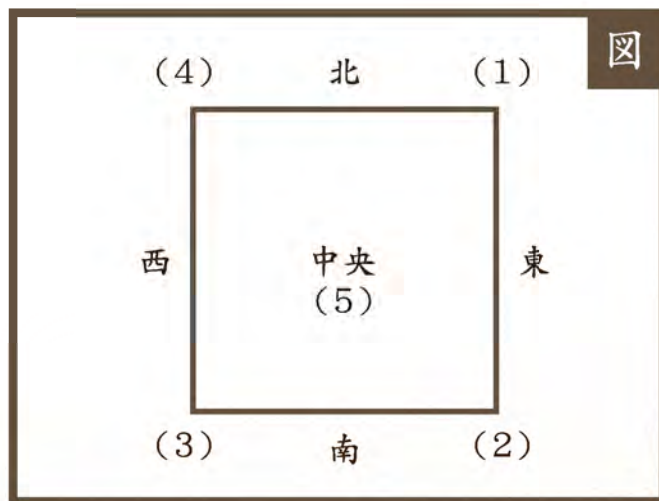
古来大変力の強いことで知られる金神様は祟ること有名な神様です。土地を触る際には金神様による災いがあるかないかと金神除けの御祈禱をします。略式の地鎮祭と思っただいて結構です。正式な地鎮祭（出張祭）も承っておりますが、簡易な工事の際には金神除をされると良いでしょう。



徹下品について

ご祈禱の方には

- ・お札（四体）
 - ・切麻
 - ・被砂
- 以上をお付けしております。



地祓の作法

一、切麻（細かく刻んだ紙と麻）に塩をまぜ、東北の隅（1）より順に中央（5）までまいてお祓いします。

※（1）から（4）までは土地の中央を背にして立ち、左・右・左とまぐ。
（5）は南を背にして立ち、左・右・左とまぐ。

一、被砂を（1）から（4）の四隅に均等にまきます。

一、砂をまいた四隅に、神札を（1）から（4）の順に刺し立てます。

※神札は四体とも竹棒などにはさみ、「地鎮守護」の面が内側を向くように立てます。
なお四体の神札の内、施主名を明記した神札が一体ありますので、これを必ず（1）東北の隅に立ててください。